

波紋

2015年10月
No. 364号

創刊 1985年(昭和60年)7月

第23回 「元気が出る森松展」

10月15日(木)・16日(金)
第23回森松展を開催いたします。
今回のテーマは

「GET A CHANCE」～「シェア」したくなる
「ワールド」に、思わず「いいね!」

です。目の前にあるチャンスを読み、みんながシェアしようという意味が込められています。また両日とも講演会も開かれますので、是非ともご来場ください。よろしくお願いします。

10月15日(木)
14時00分スタート

「アキレスエアード Tent 商品説明」

講師：岩城雅也氏 アキレス(株)

14時30分スタート

「塩ビと高周波」

講師：梅本等氏 山本ビニター(株)

10月16日(木)

14時00分スタート

「美草…多機能畳」

講師：吉田昌史氏 積水成型工業(株)

14時30分スタート

「PO多層フィルム」

講師：武田幸宏氏 オカモト(株)

実行委員長…加藤
副委員長…小原



『物事の両面』

社長 森 直樹



何事にも良い面と悪い面、表の面と裏の面があります。どちらを重要視するかでその物の評価が決まります。例えば、現在の市場で売れている商品を模倣して似たような商品で売ることが、世の中の流行・チャンスを上手に捉えることとも言えます。反対側の面から見ると短期的な利益・目先の利益にとらわれていない、ということになります。逆に売れるか売れないのか、わからないけれど面白そうなお品を企画開発し、完成に向けて様々な技術を試していくことで、なにか新たな加工方法であったりそこからまた別の方向で新商品として発売されるようなことがあるかもしれません。2005年に今は亡きアップルの創業者スティーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式に行った有名なスピーチでこう振り返っています。大学を中退した彼は興味のあるカリグラフィ(飾り文字)の講義に潜り込み、何がカリグラフィを美しく見せる秘訣なのかを学んだ。もちろん当時、それが何に繋がるのかは誰も知るはずも無かったが、その後彼が発表するパソコンをはじめとする素晴らしい製品にはウィンドウズには無い、あのよう素晴らしいフオントを搭載することとなった。つまり一見無駄とも思えるようなことも、どこで何に繋がるのかはすぐにはわからないが、それをやり抜くことで次の何かに繋がることも充分あり得るわけですね。そういった意味では、短期的な利益を追求することは企業としては優先事項ですが、短期的な利益を追うだけ先にあるものには必ず見通せることばかりではありませんが、物事の両面を見通せることばかりではありませんが、物事の両面に繋がっていくでしょう。

物忘れ

光田 昭男 (企画営業部)



あれ、これ、それ。知り合いに、みっちゃん、あれがよう、ほんでよう、これがよう、会話にならない。あれってなに、これってなに、あれだて。解るわけがないでしょ。最近ですが、思い出せないことが多くなっていることに、残念な思いがあります。うう、メーカーさんの担当者の名前が思い出せない。昨日、打ち合わせをした時は覚えていたのに。クソ！腹立つ！こんなことが続いています。電話番号は携帯電話を持った時から覚えることはしない。約束の時間もスマホに登録。間違うのが怖いので、覚えることをしないようにしている。日常生活の中での記憶の訓練も怠っているように思われます。昔の担当であったお客様などは、今でも電話番号が言える。それは携帯も無く、電話BOXでの反復練習があったからなのでしょう。

調べてみました。物忘れと認知症の違いは？記憶力は20代をピークに加齢とともに減退しますが、記憶力以外の能力は様々な経験や体験から学ぶことで20代以降も成長し、知能全体では50歳ごろまで伸び続けるといわれています。しかしながら、多くの人は60歳頃になると記憶力に加えて判断力・適応力などに衰えがみられるようになります。知能の老化が始まります。記憶力の老化が進行し物忘れが次第に多くなるのもこの時期ですが、この物忘れは加齢に伴う自然なもの、認知症の症状ではありません。加齢に伴う物忘れとは？認知症ではない普通の物忘れは、例えば「うっかり約束時間を忘れてしまう。」「印鑑をどこにしまったか忘れてしまい、探している。」「などです。健康な人の物忘れの場合、「約束をしたこと」「印鑑をしまったこと」「自体は覚えていますが、認知症の症状としての物忘れとは？認知症の症状による物忘れは、約束した「そのこと自体」を忘れたり、印鑑をしまった「そのこと自体」を忘れたりすることです。体験自体を喪失しているの、認知症の患者は理由が分からず「約束なんかそもそもしていない」とか「印鑑がないじゃないか。きつと盗まれたんだ！」とおこることもあるそうです。私も印鑑を特別なところにしまい、どこにしまったか忘れてしまい困ったことがあります。何日も探してことを思い出しました。やはり加齢ですね。

衰え

黒松 康郎 (東京オフィス)



最近の目の衰えがすごい。
①お客さんの所に行って内線番号を間違える。特に「0と6と8」の区別ができない。
②パソコンやスマホを見てすぐに新聞を見ると全く見えな
い。時間が長くなるほど余計に見えなくなる。
③ゴルフに行くとき球を追えない、落ちた位置がわからなくなつた。同伴プレイヤーの球の落ちた位置を昔は把握できたのに。
④車の運転の視野が狭くなっているように感じる。判断力も落ちているのかも、車の運転には自信があったのに。

先日の健康診断では、「左右0.8」でした。前年は「左右1.0」だったように思う。近距離に問題があるので間違いなく「老眼」である。老眼鏡を1年程度前に購入したが、合っていないように思い最近掛けていない。となると、本を読むむのにも新聞を読むのも敬遠しがちになる。目だけかなと思つていたが、耳もそうである。廻りの雑音が大きいと会話がすごく聞き取りにくい。聞こえないから、簡単には「はい」と言ってしまうことが多い。聞こえないから、そうなる。物を考えないので間違いなく頭が悪くなっている。前日聞いて覚えていたことが、次の日に間違いなく忘れていく。そのう、物忘れが多くなっている。単語が出てこない。名前が出てこない。好きだった数字にも弱くなっている。1つ前の事に多く時間がかかるようになり、途中であきらめてしまふ事も多い。となると集中力も無くなり、無気力と欲も無くなり、「人間廃業」状態になつていく。検索サイトで「人間廃業」と検索するところでもない物が出てくるので、検索はしないほうがいい。間違えなく「目の衰え」から始まつたこの状態。目の対策を打つてからもう一度「生まれ変わる」努力をしてみよう。と考えると、還暦は60歳ですが、私の脳は50歳で還暦ではないかと思う。日本人の寿命は延びて、年金支給の年齢は遅くなつていくが、人間の脳と欲の退化は早くなつていくように思う最近である。

